



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2020-2021年度 第17週報 No. 2127 2020年(令和2年)11月20日 第2127回 例会記録 11月27日発行

本日〈11月27日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「手に手つないで」
- ◆ 献立 週替わり弁当
- ◆ 卓話 「サステイナブル農業」
トミタテクノロジー株式会社 代表取締役
富田 啓明 様
(紹介者 馬場 佳子 会員)



写真提供 小池 将夫

司会 友添 辰哉 副幹事

点鐘 山本 芳弘 会長

斉唱 「それでこそロータリー」

四つのテスト 茂木 知子 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

会長報告 山本 芳弘 会長

- ・本日より、臨時給付金3万円を受付にて事務局よりお渡ししております。お受け取りがまだの方は帰りにお立ち寄りください。
- ・11月度定例理事会報告

幹事報告 田口健太郎 幹事

- ・横浜鶴見北ロータリークラブより年末例会の案内が来ておりますので回覧します。

日時 12月17日(木)12:00~14:30

場所 新横浜国際ホテル

卓話者 元中日ドラゴンズ 山本 昌様

- ・日本ネパール女性教育協会より記念誌が届いておりますので回覧します。

2020-2021年度 R1 会長 ホルガー・クナーク



ロータリーは機会の扉を開く

第2590地区 ガバナー 吉田 隆男

会長	山本 芳弘	会計	白井 康夫
会長エレクト	小山市 康	副会計	渡邊 淳
副会長	赤堀 和人	S A A	佐藤 勝彦
副会長	植田 清司	副 S A A	古澤 一憲
幹事	田口 健太郎	副 S A A	月山 勇
副幹事	友添 辰哉	クラブ会報	池田 広樹

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
 TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

誕生日祝

我妻 隆邦 会員 (11月21日)

小池 将夫 会員 (11月21日)



委員会報告

会員増強委員会 委員長 加野 亮一

昨日、東京紀尾井町ロータリークラブに我が地区の拡大増強委員長はじめ委員の方々合計6名でメークアップに伺い、我がRCにお越し頂いた大竹会長と懇談会をしました。

やはり、拡大が成功しているクラブは、各会員の意識や取り組みや雰囲気も全く違っていました。また、女性会員も多く、例会の雰囲気が明るい点も良かったです。

我がクラブも全員が会員増強の意識を持って取り組める為にどうすべきか、これから色々行動して行きたいと思えます

スマイルボックス

古澤 一憲 副SAA

我妻隆邦君 誕生日祝いをありがとうございます。本日、所用にて例会を欠席致します。

小池将夫君 誕生日祝い、ありがとうございます。78歳になりました。

山本芳弘君 ①北村さん、本日のイニシエーション、楽しみにしています。②感染が拡大しています。お気を付け下さいませ。

月山 勇君 臨時給付金を頂いたものですから……。持続化出来ないですかね……。

山本 登君 冬なのに暖かい！

河野明光君 コロナ禍で頑張っている北村大輔君の卓話を楽しみにしています。

伊東英紀君 コロナ感染が増えています。皆様、気をつけて下さい。

植田清司君 嬉しい給付金が入りましたので、少しでもニコニコへ。

横溝 亘君 北村さん、今日のイニシエーションスピーチ、楽しみにしています。

稲の刈り取りを終えた水田に稲架掛け風景。

この天日干しはアミノ酸と糖分の含有量が高くなり、お米の旨味と栄養分が増すそうです。

【写真提供 小池 将夫 会員】

表紙の写真



茂木知子さん ~赤堀さんが欲しいもの~欲しいものはネコの自動給餌器のヒントを得た、毎日日替わりで奥さんが落ちてきてくれる自動給妻器です。白鳥さんに設計を依頼することをお奨めします。欠点は、奥さんが落ちてきた後、子どもが3~4人落ちて来ることだそうです。

友添辰哉君 北村会員、本日のイニシエーションスピーチ、楽しみです。よろしく！

岡部雄一郎君 北村さん、本日のイニシエーションスピーチ、楽しみにしています。よろしくお祈りします。

加野亮一君 他クラブにメークアップに久しぶりに行きましたが、刺激があって楽しいですね。

角野弘幸君 北村さん、イニシエーションスピーチ、楽しみです。

池田広樹君 北村さん、イニシエーションスピーチ、楽しみにしております。

北村大輔君 本日、イニシエーションスピーチをさせて頂きます。よろしくお祈りします。

古澤一憲君 北村さん、イニシエーションスピーチ、楽しみにしています。頑張ってください。

11月20日	17件	38,000円
本年度累計		836,770円
年度目標進捗状況		-6%

出席報告

横溝 亘 出席委員長

会員総数	52名	(32+20)名	
出席会員数	36名	(23+13)名	
出席率	80.00%		
ゲスト	0名	ビジター	0名
前回補正後	93.75%	前々回補正後	91.84%

イニシエーションスピーチ

北村 大輔 会員



新横浜で『ラウンジ ナンマドール』を経営しております北村です。赤堀さんの紹介で、昨年10月から入会させて頂いたのもう1年になります。本年度は雑誌委員長を務めさせて頂いておりますが、新年度のご挨拶でも言いましたが、読み書きが苦手でこのような沢山の人の前でしゃべる事も今まででした事が無かったので、とても緊張してスピーチをさせて頂きます。宜しくお願い致します。

私が生まれたのは、横浜市の以前は港北区の茅ヶ崎町という場所で、今の市営地下鉄センター南駅の正面にあります杉山神社の下に自宅がありました。この神社は、父がずっと管理しております、毎週日曜日は神社の草刈りや落葉拾い、賽銭の管理修繕とずっとやってきた神社で、幼い頃はよく連れて行かれ手伝いをしていました。昔は、山と畑と田んぼだらけの自然が沢山ある場所でしたが、今は開発も進み、とても住みやすい街に変わりました。神社も新しくなり、この長い階段に初詣の行列が出来るほどになりました。

幼稚園に通っておりました5歳の時に、区画整理のため土地を移すことになり、新しく家が建つまで近くの借家に引っ越しをすることになりました。都筑区の中川小学校に通っていた小学6年生の時に、家が建ちまして都筑区茅ヶ崎南に引っ越しをしました。中学校は、近くの横浜市立茅ヶ崎中学という当時はかなり荒れている中学に入学をしました。朝から火災警報ベルが鳴っていたり窓ガラスなどが割られていたり、先生方もケガをされたり、毎日がとても濃い学校生活でした。

私は勉強が苦手で、親から家庭教師や塾にも通わせてもらいましたが全く実にならず、高校は神奈川県で下から数えた方が早い横浜商工高等学校の機械科で、今の横浜創学館に入学しました。部活は、中学から続けていたバスケットボール部に入り2年生の時に副部長になりましたが、先輩と仲が良く部活を辞めて先輩の地元の本牧でほぼ毎日終電まで遊んでいました。

色々な資格を取り、その専門の会社に就職していくというのが機械科の流れでしたが、私は一つも資格を取らず東京アナウンス学院という専門学校に行きました。俳優や歌・アニメやお笑いなど色々と学べる学校でした。丁度進路を決める時期に、若山富三郎さんの息子の喜一郎さんと遊ばせてもらっていて、多分憧れもあったのでしょう、芸能に行きたいと演技・歌などを勉強しに入学しました。発声練習や演技の基礎を勉強しましたが、結果、半年で退学届を出しました。

その当時アルバイトをしていた和食屋に、毎日のように来ていた常連さんの仕事を手伝うことにしました。主に、アルミの手すりを取り付ける仕事でした。色々な道具の扱い方や、お金の稼ぎ方などを教えて頂きましたが、その方がお酒がとても好きでして、昼ご飯の時もビールや日本酒を飲んで、仕事が終わるとお酒を買って助手席で飲み始めます。夜中までお酒を付き合わされ、朝迎えに行くと二日酔いで仕事に行かない日もあり、一年ほどで辞めさせて頂きました。

当時、マンションを借りて一緒に暮らしていた彼女が関内のクラブで働いておまして、お店のオーナーから仕事を探しているなら運転手をやらないか、と誘われました。その方は反社会的勢力と言われる組織団体の方でした。19歳の自分は、何も考えず、とりあえずやってみようという軽い気持ちで、試しに1日

やってみたくてお願いをしました。

朝10時に迎えに行き、言われた通りに運転をして、ある場所で車を停め「1時間ぐらい車に乗って待っていて」と言われました。徐々に周りに車が増え、沢山の危なそうな人が運転手を外に待たせてビルに消えて行きました。待っている間、他の運転手の方が寄ってきてジロジロ見られ、1時間以上ずっと下を向いていました。さすがにヤバいと思い、夜ご自宅に送ったときに断りました。本当に続けなくて良かったと思っています。

その後は真面目に引っ越し屋で半年ほど働き、次は川崎インター近くの倉庫で富士通のパソコンの組み込みから搬入搬出などを行う会社でアルバイトをしていましたが、朝が早く残業で夜中の12時過ぎが当たり前でしたので、彼女には捨てられました。

1年程この仕事を続けていましたが、そんな時地元の先輩から連絡を頂き、先輩がマネージャーとして働いている新横浜のクラブでスタッフの募集をしているから来ないかと誘われ、面接に行きました。その頃は頭も金髪でしたので雇ってもらえないだろうと面接に行ったところ、意外にも採用されたのがきっかけで、夜の仕事に就くことになりました。新横浜で一番古いクラブで、マナというお店です。会員の皆様の中にも行った事がある方もいらっしゃるかもしれません。当時、クラブマナは50坪ほどの店舗で、大ママ・チーママ・部長・マネージャー・黒服のアルバイト3人・バニーガール2人・女性キャストが20名ほどの体制で営業をしていました。20時にオープンするとすぐにお客様が来店してきて21時にはほぼ満席で、閉店までずっと満席の状態でした。

働き始めて1年ぐらいたった頃に、モモという20坪ほどの小さな姉妹店をオープンしました。先輩のマネージャーが姉妹店に行くことになり、私はクラブマナで部長の下につきました。その当時は、まだ給料も少なかったのでお店の一つ上の階に村さ来という居酒屋があり、そちらの居酒屋の部長もよく来店されていて、仲が良かったのでランチ時間のアルバイトをお願い致しまして、昼間の11時から居酒屋でランチを手伝い、そのままクラブで夜中の2時まで働き、お客様とお店が終わってから居酒屋やカラオケに行き朝まで飲み、睡眠時間少なく働いていました。そんな時部長が辞めてしまい、また黒服のアルバイトも減り、私とアルバイトの2人でママに色々教えて頂きながら、お店を回していました。

アルバイトの掛け持ちもかなりきついと思っていた頃、その居酒屋が火事になり休業してしまったのもあり、クラブだけで仕事をする事にしました。アルバイトも1人増えれば1人辞め2・3ヶ月アルバイトが入って来ず、私一人で女性たちに助けてもらいながらお店を回していました。

そんなギリギリの状態、1年ぐらいたった頃、今度は姉妹店に行ったマネージャーも辞めることとなり、アルバイトで数ヶ月前に入った人間を姉妹店に投入しましたが、半年ほどでギブアップし、結局私が姉妹店に行く事になりました。姉妹店に行った最初の印象は、スタッフも暗くお店も汚いという印象で、売上も上がっていませんでした。せっかく一つのお店を任されたのなら、必ず売上を上げてやろうとお店の掃除からやり始め、女性の募集もかけ直し1年ぐらいたった頃には倍近く売上

を上げられるお店までに出来ました。そこでやっと、社員にして頂きました。

その頃、私の友達が一つ下の階のクラブで店長をしていました、そこで働いていた娘を紹介してもらいました。3歳の女の子と2歳の男の子がいる子持ちの娘でしたが、お付き合いをする事になりました。お付き合いをして半年ぐらいで一緒に住むことになりマンションを借りました。給料も安かったので、また昼間に雑誌の配達をしながら夜も働き、2000年12月に籍を入れました。それが今の私の妻です。早いもので、今年で結婚20周年になります。

今では、自分のお店のママになって頑張っています。

結婚してから約1年後の2001年11月に双子が生まれ、今度は内装解体やゴミの運搬・内装会社の手伝いをしながら、夜の仕事を続けました。

1年ほどたった頃、また本店のクラブにマネージャーとして戻ってほしいと言われ、私が本店に戻るという事は、またアルバイトに姉妹店の店長をさせるという事になるので、結局2店舗の統括部長になりました。勤めてから7年程の間、2店舗のお客様には本当に可愛がってもらい、お席で一緒にお酒を飲むのが仕事みたいになっていました。食事に連れて行ってもらったり、旅行に連れて行ってもらったりと、色々な経験をさせて頂きました。また、大ママにはお店を経営するという事、人との繋がりやおもてなしなどを沢山教えてもらいました。

そんな時、以前からスポンサーになってもらえるというお客様がいて、その方といつかはお店を出そうと話していたのですが、私も成長し自分でお店を持ちたいという気持ちが強くなってきた頃でした。新横浜に丁度良い物件が見つかり、大ママに「近くでお店を出したいので辞めさせてください」と、お話しをしました。お店もマネージャー・アルバイトも成長してきたので私が抜けても回せる状態になっていたのも、大ママも快くまでは無かったと思いますが、送り出してくれました。

そして、2003年6月にお店をオープンすることになりました。当時は、周りのお店からすぐに潰れるだろうと噂になっていたようですが、今年の6月で17周年を迎える事が出来ました。この17年の間に、和食屋を2011年に作り2年ほどやりましたが、その頃はあまり景気も良くなく、両店舗とも売上が落ちてきてしまい和食屋を閉店するか迷っていた頃、仲の良いお客さんに相談をしたら、その場所で鉄板焼専門店をしたいと言われました。これで、少し楽になるなあと思っていたのですが、お客さんから、私がお店の代表を辞めて会社に入社しないと和食屋の場所を引き継がないと言われてしまい、2013年にお店を妻に任せてそのお客さんの会社に就職し、飲食事業部で自分のやっていた和食屋の跡地に鉄板焼専門店を焼音處 鐵という名前でオープンしまして、2014年には札幌の豊平にタンタンメン屋をオープンし、2015年4月には新横浜駅の裏側の篠原町に焼肉 鐵を出店など飲食店の立ち上げを経験しました。

先月の職業奉仕委員会の卓話でお話ししましたが、今は篠原町の焼肉鐵がお店としては残ってまして、経営者も代わり営業をしています。その経営者と今一番親しくさせて頂いており、今でも私は焼肉鐵に色々協力をしています。来週、若手の会を使って頂く事になっております。ありがとうございます。若

手の会の皆さん、楽しみにしててください。

その後本社に異動となり、ケミカル事業の営業・商品管理・経理・新しいカーコーティング事業の立ち上げを経験させて頂きましたが、その頃に痔瘻を発症しまして初めて大腸検査を受けました。ストレスによるものではないかと言われました。

同じ頃、自分のお店の経営状況もさらに悪くなり、出資して頂いたオーナーの会社も倒産しまして、オーナーと話をしてお店の権利を買い、自分がオーナーになりました。

勤めていた会社では、営業部以外、全ての部署で部長という役職でしたのでストレスが溜まってしまったのかもしれませんが。

そんな事もあり、入社して4年目の2016年10月に退社させて頂きました。翌年2017年1月から、畳の張り替えやリフォームをする会社の営業を外注として入らせてもらっていましたが、1年ほど経った12月の初め頃から腹痛が起こりだし体調が悪くなり、年末にセンター南にあります昭和医大の救急へ行きました。翌年1月から仕事を休み大腸検査などを受け炎症性腸疾患・(クローン病)だと診断され、1月末頃、市民病院に2週間ほど入院しました。入院から1週間は絶食と言われアメ玉とお茶だけしか口に入れられず、点滴をずっとしていました。少しずつ流動食からお粥になりましたが、体重は8kg減り、退院時には50kgまで落ちていました。

私がなったクローン病は、簡単に言うと口から肛門までの間のどこかに炎症が起きる難病です。ストレスや食事・動物性油の取りすぎなどで発症する事が多いようです。私の場合は、大腸型で白く斑点のような炎症が沢山起きていました。以前になつた、痔瘻が始まりの合図だったみたいです。

ネットで見つけた資料ですが、クローン病は1976年私の生まれた年ですが、128人の方が罹っていましたが、2016年には約40,000人にも増加してきているようです。今では、もっと増えているのではないのでしょうか。福岡県立 社会教育総合センターの岩崎昌子先生という方がSNSでアップしているのを見つけました。

1945年代以前の日本人の食生活は、脂質の摂取が少なく食物繊維を多く摂取していました。ところが、1960年代頃からの高度経済成長期に、食生活の欧米化が進行し、ファーストフードやジャンクフード、肉類や乳製品による動物性脂肪の摂取で、脂質量の摂取が急増しました。逆に食品の精製度が高まり、白いご飯や白いパン、白砂糖を摂ることが普通となり、野菜不足も相まって食物繊維の不足が問題となっています。「和食の時代にクローン病はなかった」というのは、低脂質で食物繊維を十分にとっていた時代の事です。炎症性腸疾患は悪くなったり、よくなったりを繰り返す難病ですが、食事療法は脂質を控えた和食が良いとSNSでおっしゃっていました。今は、食事に気をつけて脂質の少ない物を取るよう心がけています。

私は、退院の日一人で電車に乗り、自宅まで帰ろうと歩き始めましたが入院中から目が見えづらくなっていて、字も歪んで見え黒い影も見えていて前がよく見えない状態で、どうにか自宅まで帰りました。翌日、近くの眼科で見てもらおうと眼球に水が溜まっていると言われました。原因は、私が飲んでいるステロイドの薬の副作用ではないかと言われ、市民病院に連絡を取ってもらいステロイドの薬はやめる事になりました。

それから二日ぐらいくると少しずつ見えるようになってきましたが、左目が未だに見づらく縦横の線が歪んで見えていますので、老眼鏡をかけないと小さな字が見えづらい状態です。退院してから半月ほど自宅で療養し、また自分の店に戻り現在に至りますが、今も毎日薬を飲み、2ヶ月に一度レミケードという点滴を1時間打ちに行っています。

お店のお客様の中に、ライオンズクラブの方がいらっしゃり、高津の駅で毎年献血推進活動をしているので、家内と一緒に献血に行くのですが私が飲んでいるメサラジンという薬が献血出来ないという事で、いつも家内の付き添いで献血が終わるまでお客様と話をしています。病気をすると色々と支障が生まれ、やりたい事も出来なくなってくるのだと初めて感じました。今は体調も良く、月に3・4回は新横浜の経営者仲間とゴルフや、たまに旅行に行っていました。今年はコロナの影響で大変売上げが下がっておりますので、その仲間達はお店のほうにも来て頂いて協力もしてもらっています。神奈川東ロータリークラブの皆様にも助けて頂き、この場を借りて御礼申し上げます。この先、仲間やこの神奈川東ロータリークラブの皆様と長いお付き合いが出来るよう、お店をやりつつ新たな事業を始める準備をしています。

最後に、未だに続いているコロナ禍の中、大変ご苦労をされている方もいらっしゃると思いますが、私もお店を続けていけるよう努力し、このロータリークラブの社会貢献活動に、出来る限り取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い致します。

本日は、大事なお時間を頂きありがとうございました。

2020-21年度 7月～10月 テーブルミーティング報告

テーマ「今できることとは!？」

【第1テーブルミーティング】

令和2年8月28日(金) 例会終了後

テーブルマスター：金森 欣一 サブマスター：須永 久一
参加者：20名

今年度最初のテーブルミーティングを例会終了後にキャメロットホテルで開催しました。コロナ渦中の開催ということで、参加される方が少ないのではと心配しましたが、会長、幹事ははじめ総勢20名の方にご参加頂き、活発な討議が出来ました。

まず山本会長にご挨拶頂き、まずは健康第一、命を守っていくことが最重要であるとお話しの後、「今できることとは!？」について討議致しました。

- ・自分の健康はもとより、周辺の人々の健康を守りつつ、経済活動を伸ばしていくのは容易ではない。週一回の例会が楽しみである。
- ・例会もハイブリッド型にしたり、回数を減らす、会費を減免するなどの新しい方法や企画も必要。
- ・こういう時こそ寄付をしていきたい。

・会員の仕事にも影響が大きいのが辞めるわけにはいかない。

など様々な意見が出されました。

やはり、人に会って感染するのも怖い、あまり恐れていても何も出来ないとのジレンマが会員の言葉の中から感じ取れました。幸いにして、我がクラブ関係者ではまだ感染者が出てはいませんので、様子を見ながら活動を続けていければと感じた会合でした。

【第2テーブルミーティング】

令和2年9月18日(金) 例会終了後

テーブルマスター：茂木 知子 サブマスター：横溝 亘
参加者：10名

コロナ禍における各会員の職業状況について、語って頂きました。

多くの会員が、休業を余儀なくされたり、テレワークに移行したり、人を集めることが出来ないなどの影響を受けていました。大部分の職業で、収入の減少があるそうです。この時期に吉田ガバナリーに対する会員の支援は、他クラブのガバナリー訪問に同行することではないか、と加藤会員からの提言がありました。

【第3テーブルミーティング】

令和2年10月16日(金) 11時～

テーブルマスター：加野 亮一 サブマスター：我妻 隆邦
参加者：13名

【議事内容】

池田会員：我が会員を支援する意味で北村会員のお店に他会員と一緒にいった。

角野会員：親睦委員長としては冬の家族会が中止になって他のものを考えている。

青柳会員：国から融資が10億円出たので何をしようか考えている。スシローの新しい業態が気になる。

佐藤会員：本業の仕事と向き合う時期でお客様・社員そして利益を上げる体制作りをしたい。

赤堀会員：1人で暮らしていると心身の健康管理の難しさを感じた。人との交わりの大切さが見に染みだ。

植田会員：そろそろ丸テーブルによる例会でもいいのでは？

(ホテルの都合との事ではできない、との回答が会長からあり)

河野会員：コロナ禍の前では過去の経験値から仕事をするのは無理なのかも。歴史があるRCはなかなか変えられないが我がRCはそうでは無いので来期に向けていろいろ提案していきたい。

田邊会員：本来はテーブルミーティングってのはなくて、神奈川クラブから始まったもの。昔はほぼ飲み会だった。

岡部会員：アクリル板の販売をされているんな会員の方にも購入頂いている。

田口会員：命あってのものなので、身を守って欲しい。有事のときこそそのロータリークラブの仲間だと思っています。

ロータリーニュース

ROTEX：青少年交換後のつながりを保つ

海外留学から帰国後に寂しさを感じる学生は少なくありません。国際的なつながりを保ちつづける方法の一つが「ROTEX（ローテックス）」です。

リーカ・ムジェさんは、2011-12年度にロータリー青少年交換でフランスのブルターニュ地方に交換留学し、海外生活をエンジョイしました。「最初は難しかった」と回想するムジェさん。「フランス語が話せなかったし、知り合いもいませんでした。でも、いつのまにか異国での生活にすっかり慣れていました」

交換留学が終わってフィンランドに帰国したムジェさんは、母国での元の生活に戻るのに苦労しましたが、ROTEX（ローテックス）への入会でそれが変わりました。

「ROTEX（ローテックス）」とは、ロータリー青少年交換の学友によるグループで、ロータリアンと青少年交換学友とをつなぐ存在です。母国の交換学生のためのアドバイスやイベント企画を通じて、交換留学での経験をロータリーに還元しながら、国際的なつながりを維持しています。

トゥルク大学医学部5年生であるムジェさんは現在、フィンランドの5地区に80人以上のメンバーを有するROTEX フィンランドの会長を務めています。この度、ムジェさんにROTEXについて伺いました。

ROTEXグループは世界各地にあるのですか？

地域によります。例えば、ドイツ、台湾、ブラジル、フィンランドではROTEXの存在が確立されています。ほかの国でも設立の動きがありますが、ROTEXがない国や、国際ロータリーから認定されていない国もあります。

ROTEXはこれまで、4回にわたり、毎回違う都市でROTEX国際大会を開いてきました。4年前、ROTEXへの認知を広げるために設立したRotex Internationalでは、異なる国から5名が理事会メンバーとなっています。昨年には、Rotex Internationalがロータリーの学友会として認定されたことで、正式にロータリーファミリーの一員となりました。

ロータリー青少年交換におけるROTEXの役割とは？

フィンランドでは、学生がロータリー青少年交換への参加を申請すると、ROTEXのメンバーが面接に同席して選考のお手伝いをします。また、海外に旅立つ学生のためのオリエンテーションにも参加し、自分の留学体験を紹介しています。学生たちが帰国した後は、Eメールを送ってROTEXへの入会を勧めています。ROTEXは、海外留学という貴重な体験をさせていただいたことへの恩返しの方法でもあります。

ほかにもどのような形でロータリアンとかかわっていますか？

地元でのロータリー青少年交換行事を手伝ってほしいと、ロータリアンから頼まれることがよくあります。フィンランド

では、交換留学のはじめに行われる言語・文化キャンプの運営を私たちが手伝っています。毎年10～15人のROTEXメンバーが、キャンプリーターとして参加しています。また、ロータリアンが青少年交換学生のために国内ツアーを実施するときには、運営を手伝ってほしいと声がかかります。

自分たちでも、毎月または隔月で、地区ごとの小規模なROTEXイベントを催しています。また、学校訪問やソーシャルメディアキャンペーンを通じて青少年交換の宣伝活動もしています。ドイツや米国など、国によっては、ROTEXメンバーが募金イベントを実施することもあるようです。私もROTEXフィンランドの会長として、フィンランド青少年交換（Finnish Youth Exchange）の会議に出席し、若い世代を代表して意見を提供しています。

なぜROTEXに入会したのですか？

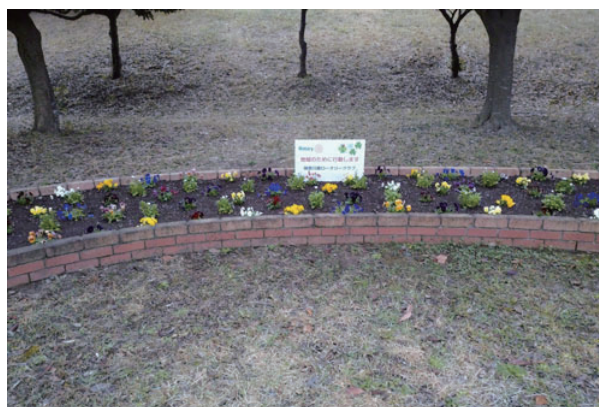
ロータリー青少年交換でのフランス留学でとても充実した体験をし、帰国後にむなしさを感じていました。ROTEXは、国際的な交流を続け、自分と同じ経験をした人たちと知り合うチャンスを与えてくれます。帰国後に元の生活に戻るのとは時として難しいものですが、ROTEXがその苦労を和らげてくれます。

私は、フィンランド北部、北極圏との境にある故郷の町ロバニエミでROTEXに入会しました。大学進学でトゥルク（同国南部）に引っ越したとき、大学で出会った人以外に知り合いがいませんでした。ROTEXのおかげで、医学以外の友だちができました。これは本当に貴重なことだと思います。

ロータリーニュース

岸根公園花壇花植え実施

先日、社会奉仕の一環である岸根公園花壇の植付けを、今年度はコロナ禍の為、滝川造園さんにて実施して頂きました。



次回〈12月4日〉の予定

「新型コロナウイルスと生きる

～怖がりすぎない でもしっかり対策～」

YMG感染制御部 部長 森山 由紀 様

（紹介者 山本 登 会員）